

七ヶ浜レポート 3月

きずな工房 (月～金 10:00-15:00)

七ヶ浜 RAINBOW project



この企画は、以前から防災活動で共同していた建設会社の山田組さん、ナックプランニングさんと、洋菓子店フィレンツェさんのご協力で、開発していただきました。第一段は、カエルのマスコットとクッキーがセットになった復興支援スイーツです♡

工房に登録しているお母さんたちの手で一つ一つ手作りされているカエルちゃん。生きがいがカエル、人がカエル、お金がカエル、笑顔がカエルといった思いが込められています。

クッキーは、七ヶ浜の「7」をモチーフとした7色のカラフルなデザインで、食べるのがもったいなくらいカワイイ♡また、「7色の希望の虹が、名古屋と七ヶ浜を結ぶ」といった意味もあります。

★3月9日に発売になった第1弾スイーツは、なんと、わずか1時間ほどで50個を完売しました！！



● 三重県紀宝町の恩返し ●

台風12号・15号で被災した三重県紀宝町から七ヶ浜への応援グッズ「みかんのアクリルたわし」が届きました！昨年11月、七ヶ浜から紀宝町への応援グッズとしてお届けした「カエルちゃん人形」の恩返しにと、紀宝町の皆さんが2か月の間に延べ150名の方が参加され、約700個作成。七ヶ浜のカエルづくりに参加した住民の方や、七ヶ浜町ボランティアセンターのスタッフにお渡ししました。

「私たちなんかより、きっと大変な思いをしてるのでは・・・」と、互いの苦労を気遣う言葉が沢山聞かれ、過去の災害から互いを思い、支え合える存在が、大きな力になっていくのではないかと思います。



七ヶ浜レポート 3月

3.11イベント (3月10日)

感謝の「たべさいん」



「名古屋からのボランティアが来る3月10日に合わせて、感謝を込めて食事会をしたい」と「たべさいん」の皆さんからご招待を受けました。心を入れて手作りしてくださった約50人前の、まぐろ海鮮丼、サラダの小鉢、七の市商店街・佐藤鮮魚店さんがご提供下さったホタテの稚貝のお味噌汁、お吸い物、桜茶、そしておいしいお漬物。皆さんのあたたかいお気持ちが伝わってくる美味しさでした。

食事の後のお話では、震災直後の混乱する中、地域のために奔走されていたことや、親しい友人や親族、慣れ親しんできた風景を一瞬のうちに失った喪失感と深い悲しみ、ボランティアへの感謝の言葉など、それぞれの想いを様々な形で語って下さり、3.11の傷跡、そして周囲への感謝の気持ちの一端が、一人一人の心の中に刻まれました。また、会場全体が、共に笑い、涙する光景に、七ヶ浜と名古屋の繋がりの強さを改めて感じました。

※「たべさいん」…避難所で80歳以上の年配の方が、辛そうにカップラーメンを食べている姿に衝撃を受け、近所のご協力で野菜を集め、週に数回サラダやおひたし、お漬物などを届けた地元の集まり。



再会★喜びの交流会

ボラバス46陣32名と七ヶ浜の方が、きずな館やお住まいの仮設住宅で、おしゃべりをする交流会。

好きなもの、好きなこと、七ヶ浜のこと、震災のこと…貴重なお話をお伺いさせていただきました。

言葉を詰まらせながら、この1年について話す方。行政の対応に不満を募らせる方。まだまだ多くの不安を抱えています。被災された方々の様々な言葉を真摯に受け止め、地元に戻ってもできること、忘れないために何ができるか…と想いを巡らせました。



七ヶ浜レポート 3月

仮設店舗「七の市商店街」

盛り上がる「七の市」

今月の七の市イベントは2回。20日は、大阪JC40年会の「商店街を応援したい。本場のたこ焼きを食べてもらいたい！」というお声かけにて開催が決定！さらなる盛り上げ役に、地元菖蒲田地区の歌姫・亀谷ふみ子さんが「七ヶ浜音頭」を中心に、演歌からポップスまでを歌い上げました。また、地元のお店の出店も増え、大賑わいとなりました。応急仮設住宅やみなし仮設の皆さんを中心にチラシを配布、当日はのべ150名程の方がご来場下さいましたが、それ以外の場所に住んでいる方からは「こんなイベントがあるなんて知らなかった」との声も聞かれ、課題が残ると実感しました。



安城市からの贈り物

2回目は25日。安城市ふれあい「えのき」さん、石川ファームさんなどが、「七ヶ浜に野菜を送るプロジェクトチーム」を発足し、JAあいち中央農協青年部の協力で、たくさんのお野菜を提供していただいています。今回はボランティアバス47陣が袋詰め・販売をさせていただき、3時間のイベントの中で、全て売ることができました！**売上は今後の商店街活性化のための基金として活用されます。**ありがとうございました！



● 店主さんたちの声 ●

・震災がなければ各地区ごとの交流はほとんどなかった。本当に嫌な災害だったけど、地区の枠を超えて商店が横に繋がっている。お客さんも、今まで別の地区ということで挨拶もままならなかった者同士が気軽に声を掛け合う姿もある。以前よりも一つになっているように思う。

・七ヶ浜は離れ小島で、外部の声はなかなか聞けなかった。震災をきっかけに沢山の出逢いを重ねることで、今まで凝り固まっていたものがパッとほじけた気がする。外からの支援は空気を変える力がある。